

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1349 2025/09/11日(木)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

歴史は、科学か？

「それでも日本人は『戦争』を選んだ」(加藤陽子 新潮文庫)を読む

現在の社会情勢を考える

「激動の情勢」だと言われている。現象的には、先の2回の国政選挙で自公(与党)の議席が衆・参両議院で過半数を割ったという事に、象徴されている。そして、その要因は、概ね、次の4点に集約されます。

- ① あまりの物価高と賃金の停滞が続く。
- ② 大量の非正規労働者が生み出され、賃金の停滞が30年以上と特別に長期に広範に渡っている。
- ③ その中で、インフレが起きて、毎日の生活が目に見えて悪化し続けています。
- ④ 「桜を見る会」「森友・加計学園」パーティ券のキックバック「裏金」問題と「赤旗」が暴いた自民党の頹廃が誰の目にも明らかになりました。

事の始まりは、小泉純一郎内閣で竹中平蔵が導入した「非正規労働者」の導入。当初は、ITの専門職にのみ適応であったが、「働き方改革」の美名のもと、次々と対象が拡大され、大量に生み出され、それに伴って削減された賃金で、大企業は史上最大の内部留保を蓄えています。

このような、国民の福祉・生活を見捨てた政治への批判が、この体制を打破する革新政治の方向に向かっているのだ

はなく、参政党や日本保守党、(と今や凋落を続ける日本維新の会)などの極右と排外主義の政党が、劇的に議席を伸ばするという屈折した結果となっています。

文春か、赤旗かと言われる程のスクープ連発のメディアが公認されていません。そのことと紙媒体のメディアとテレビの「影響力」低下は、ネット情報(SNS)の拡がり、というより「ネット情報」しか見ない知らない巨大な人数の存在があります。

その結果、東京都知事選挙での石丸現象。兵庫県知事選挙における斎藤元彦逆転当選等々が起りました。

ネット情報の強さと弱さ

以前にも書いた事ですが、私の到達点としては、ネット情報が何故、東京都知事選挙や兵庫県知事選挙での劇的な影響を発揮した理由・原因は、「ネット情報の拡散が、一次関数(比例的直線的な)変化でなく、累乗的急カーブで増える変化だという事」を、多くの人は実感できないことに「強さ」の秘密があると考えています。

逆に言えば、その秘密がバレて多くの人々の常識となることによって、(ねずみ講と同じ仕組みですから)その手には引かからない状況が出来るでしょう。要するに「手品の種がバレるまでの生命でしかない」というのが本質だと思います。

もう一つの秘密は、グーグル検索と表示の関係です。ある人のスマホには、その人が検索した傾向に比例して、同じ傾向の記事が上位に出てきます。検索エンジンのこのシステムこそ、グーグルなどのネットメディアが、新聞・テレビ・ラジオや、雑誌などのオールドメディア広告に対して、一段突き抜けるシステムだったのでした。つまり、これまでの広告は、観ているかどうかはカウントされず、兎に角、放送する、または表示する時間や紙面の大きさに比例した料金体系でした。ところが、ネットメディアの場合は、その画面を見た(開いた)回数だけの広告料が請求さ



「スパイ防止法」
が必要だと参政党

裏に続く

れるので、広告主から考えると、とても効率的な料金体系だと受け止められます。そのシステムですので、あるサイトを運営している人には、再生回数に応じてそのサイトに広告を載せた企業からの広告料が支払われるという仕組みです。

ユーチューブでの人気サイトを運営していると、月に何百万という広告料が支払われるという仕組みです。勿論、「グーグル」や「ヤフー」「マイクロソフト」等は、その上金を撥ねて、天文学的な収入を得ているという事です。そこで、自分のサイトを「見てもらう」（開いてもらう）ことが目的となり、派手な目を引く内容や刺激的な性的な描写に走るという倒錯した現象が起きます。

最後に匿名性です。嘘でも、誹謗中傷でも何でも言いたい放題。（村井的には、「便所の落書き」程度の発言が一気に拡がりを見せます）そして、その集中砲火的な匿名の発言現象の相手を「炎上」と評して、無条件に否定する傾向は、今だ改まっていません。中身は腐っていても、一見すると明朝体のきれいな文字列なので、見かけに騙されるという事でしょうか。

私は、それよりも、先週のスマホ規制についての記事で、スマホと言う電波商品を扱うのに、「無免許」で良いとした規制緩和（儲け第一主義）にこそ、一番の問題点があると思います。子どもたちにとって教育的にどう扱うべきなのか、どのような教材がスクリーン上での表示に適しているのか、慎重に検討してじっくり判断することが、求められていたと思います。いや、今も求められています。



「それでも日本人は『戦争』を選んだ」(加藤陽子 新潮文庫)

久しぶりに本屋に足を運んで、そういえば赤旗に「岩波新書」での新刊お勧め本が出ていたなあ、程度で本棚を眺めていたら、「加藤陽子」著者の分厚い、戦前と戦後の歴史を2冊にまとめた本として目に入った。「あっ、『学術会議』での任命拒否をうけた人だ!」と、手に取って「はじめに」を読んでみると、この本の内容は歴史クラブの高校生向けになされた、数時間の講義をまとめたものだと分かった。そして、『歴史』は科学でしょうか? という問いが示されていました。

遠山啓著「数学入門(上・下)」以来の衝撃

高校を卒業した（大学に入学した）時に、数学の「水道方式」（水が流れるように理解が進む、と言う意味だったような）の提唱者、遠山啓先生の「数学入門」は、（生徒たちが）何故間違えるかまで掘り下げて解明している点で、衝撃的だった。何よりも、高校数学での微分・積分は公式を覚えて解くことは出来ていたが、それ以上でも以下でもない私だったが、その本には『最小の部分を見る』ことは『最大の拡大をして見る』ことと同じである。と示されていて、

確かに数式上、最小値での計算をしているのだから、倍率 ∞ （無限大）でその曲線（式）を考えていることになる。《無限大倍の顕微鏡で（思考して）見ている》ことになる。という内容は、高校での味気ない授業と比べて、衝撃的な内容だった。（もちろん、積分も同様の具体的な、本質的な説明で感激したことは、今でも覚えています）

そしてまた、分数の割り算は、どうして逆数を掛けることになるのか? についても、懇切丁寧に本質的な説明がしてありました。

本当に、深く理解している人（研究者）は、「何故、生徒がそこで躓くのか」を分析して、誤りの経過を理解した上で、教えることが出来る。だから、「とても易しく教えてくれる」ように感じるけれども、それは、深い理解に裏打ちされた優しさなのだと、その後の私自身の教育方針となった。（実際は、そのように深く理解するには至らなかったが、『分からない生徒』に対しては、何故そこで躓くのか、を理解できていない教師の側の課題として見るように心がけてきたと思います。

過去の歴史と現在をつなぐもの=個別の中に普遍的な内容を!

自然科学は、答えが求められるならば、途中の経過・思考もほぼ正しい（法則に則って）計算されていると言える。しかし「歴史」においては、再現実験は出来ないし、何をもって科学と言えるのか。との入口から、「それでも『日本人』は戦争を選んだ」仕組み、因果関係を明らかにしてゆきます。実は、まだ読み始めたばかりで全容をお知らせできませんが、先に述べた「遠山啓」と同様に深く分析して、私たちが何故そこで（現時点で）無力感に陥ったり、焦ったりするのか、何を掴めば（どう現在を見ることが）次の歴史を、より民主的な前進につなげることが出来るのか、が分かる（だろうと期待できる）本だと少ししか読まなくても感じる事が出来ます。

是非、貴方もお読みください。新潮文庫 です。

（村井 義幸）

※今週の「お文銭」は、お休みします。

